

## 「令和6年度MDA事業評価委員会」議事概要

○日時・会場 令和7年3月27日（木）12:00-13:56

大阪大学豊中キャンパス I 棟 101A 鈴木研究室 ※Zoom 遠隔会議で開催

○出席者：

二宮清（ダイキン工業株式会社 社友）

渡邊朋子（近畿経済産業局 地域経済部 次世代産業・情報政策課 総括補佐）

瀧寛和（元和歌山大学学長）HRAM 理事

板井光輝（株式会社日立システムズ ビジネスイノベーション統括本部 AI活用ビジネス推進本部）MMDS 招聘教授

鈴木貴（大阪大学 数理・データ科学教育研究センター副センター長）松山（事務）

○議事概要

1. MDA（数理・データサイエンス・AI教育強化）事業について

鈴木副センター長から、文部科学省推進事業「大学における数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」について説明があり、大阪大学 数理・データ科学教育研究センターでの取り組みについて報告があった。

2. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定コースに関する大阪大学の状況について

鈴木副センター長から、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定申請状況について説明があり、令和6年度リテラシーレベル、応用基礎レベルの実績報告があった。

### 【出席者意見】

元和歌山大学学長瀧先生

全体的に基礎と応用がいろいろな方面に広がってうまく展開が進んでいる。特定分野会議（自然科学系）運営では活動がより深くなり、エキスパート人材育成にも対応できるようになってきている。教育目標 2025 から始まっているので今後どういうところをさらに強化していくか考える必要がある。

株式会社日立システムズ板井様

大阪大学のカラーを広めていくことを考えたときに履修者数の推移を年度ごとに追っていくことが大事で、本当にこの知識が役に立つという動機づけが重要である。教材展開を工夫して、質を高めていくことが必要である。